

ダイズの二期作栽培

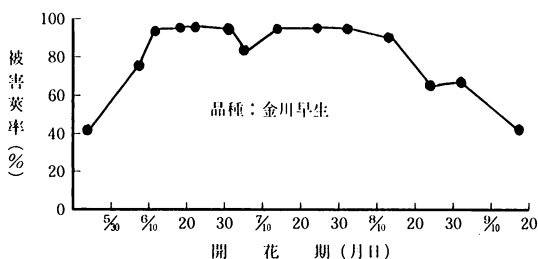
異儀田和典・大庭寅雄 (九州農業試験場)

Kazunori IGITA and Torao OHBA : Double Cropping of Soybean in Kyushu

九州地域のダイズ栽培は子実害虫の発生が多くなる前に栽培する夏ダイズ型と、発生が終熄にむかう時期に栽培する秋ダイズ型の2つの生態型に類別されている。しかし、いずれも最も太陽エネルギーの多い時期を十分に利用できないので、高い収量をあげることができない。そこで、夏ダイズの早播と秋ダイズの晩播を組合せた2期作による害虫回避と多収の可能性について試験を行った。

1. 試験方法

1) 1978年度 第1期作は夏ダイズ14品種・系統を3月15日～5月20日に5回播種。第2期作は秋ダイズ3品



第1図 開花期の違いと莢実害虫による被害率(1978年)

種・系統を1期作跡地に直ちに播種した。

2) 1978年度 第1期作は16品種・系統を3月13日～5月21日に3回播種。第2期作は8月1日～8月16日に4回播種。両年とも1区画12m²、2区制。

2. 試験結果と考察

夏ダイズの早生品種「金川早生」を播種期を変えて色々な時期に開花させ、無防除条件下での害虫による被害率を調査した(第1図)。その結果から開花期が6月15日以前と8月15日以後で被害率が低いことが明らかとなった。夏ダイズを3月中旬～4月上旬に播種すれば晩生品種でも6月15日以前に開花し、収穫期は7月下旬～8月中旬となり、収量は17～29kg/aとなった。収穫直後に跡地に秋ダイズを密播すると開花期は9月上旬となり、害虫の被害は極めて少なく、11月中旬に成熟し、収量は17～38kg/aとなった。1978年の結果の一部を第1表に示した。第1期作と第2期作の合計収量は1978年では50～65kg、1979年は44～47kg/aであった。これは秋ダイズ標準播の収量の160～200%にあたる。しかしダイズの二期作栽培は栽培期間が長いので、前後作との組合せが課題となる。また第2期作ではネコブセンチュウの発生が多くみられたことから、抵抗性品種の選定も重要となる。

第1表 第1期作と第2期作の生育収量 (1978年)

品種の組合せ	播種期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	種子実収量 (kg/a)	総収量 (kg/a)	同左対秋ダイズ単作比 (%)
コガネダイズ アキヨシ	4.11	6.13	7.31	20.4	52.8	165
	7.31	9.4	11.10	32.4		
地塚茨城1号 アキヨシ	3.31	5.27	7.27	28.0	62.3	195
	7.27	9.1	11.9	34.3		
九州88号 アキヨシ	3.31	6.6	8.1	27.5	65.9	206
	8.2	9.5	11.11	38.4		
九州89号 アキヨシ	3.31	6.6	8.4	29.2	60.2	188
	8.4	9.4	11.12	31.0		
九州90号 アキヨシ	3.31	5.28	7.30	26.6	61.1	191
	7.30	9.2	11.10	34.5		
アキヨシ(単作)	7.20	8.28	11.7	32.0	32.0	100

注) 上段が第1期作, 下段が第2期作